

前橋工業高等学校 学校評価一覧表② (令和4年度版)

(様式2)

表の見方 具体的数値項目 A: 充分達成できた B: 達成できた C: もう少しで達成できた D: 達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	★★			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 各教育活動に満足している生徒が70%以上である。	A	A	A	・生徒の満足、ほぼ満足の合計が89.8%であった。 ・わかりやすい授業や第一志望の進路実現に向けて努力した。 ・教員相互の研究授業や授業研究等を通して教育技術の向上を図った。	・校内の課題研究発表会は、いつもシッカリ聞く耳を立てて聞かせていただいている。生徒さんの驚くほどの発表能力に、若者の底力を感じる事がある。勝手な要望で少々大げさかもしれないが、地球環境に必要な温暖化や身近な河川状況に関わるテーマも期待したいところである。 ・学校全体の評価が80%～90%後半の数値が出ていることについては高い評価をします。その一方で数パーセントですが、満足していない生徒の理由もわかればと思います。 ・資格取得に関しては社会に出たときに即戦力になる資格が多く、資格取得の体制は高く評価します。 ・生徒が、ものづくりに関する実習や資格取得の指導に対して、高い満足度を得ていることから、貴校が工業高校として特色ある学校づくりを効果的に実践されていることと高く評価いたします。 ・生徒の満足度の高さから評価項目に積極的に取り組んでの高い評価になっていることに敬意を表します。	・よりわかりやすい授業を行うために、研究授業や授業研究等を通して教員の授業力を高める。 ・企業との連携をより一層強化し、生徒に多様な選択肢を用意できるようにする。
		(2) 生徒が在学中に1回以上インターンシップに参加している。	A	A	A	・2年生全員がインターンシップに参加した。2年生全員実施は昨年度も計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け実施を見送った。2年生全員実施できたのは、今年度が初である。 ・建築科や土木科では、県土整備部や業界団体と連携して実施した。	・日頃の実習に前向きに取り組み、高い目標を持ち、身に付いた知識や技術を発揮するコンテストや資格取得に積極的に取り組む生徒を褒め、認め、応援する雰囲気を作り出したい。 ・わかりやすい授業や魅力ある学校行事を展開し、さらに学校の魅力を高めるようにする。	
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	(3) 工業の長をを活かしたもののづくりに積極的に取り組み、実習内容に満足している生徒が70%以上である。	A	A	A	・生徒の満足、ほぼ満点が94.1%であった。 ・各学科とも、各種コンテストや競技会に向けて目標を持ち計画的に準備し努力し続け挑戦することができた。	・各科目において、生徒が取得希望している資格については、専門外でも極力合格できるように対応、指導を行う。	
		(4) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	B	A	A	・生徒の満足、ほぼ満足の合計が83.3%である。 ・生徒と職員が魅力ある学校作りに向けて努力する。 ・前工祭の開催をはじめ、生徒と職員が協力して新型コロナウイルス感染症対策を計画・実行し、さまざまな行事を行うことができた。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(5) 資格取得指導に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	・生徒の満足、ほぼ満足の合計が91.6%である。 ・保護者の満足、ほぼ満足の合計が85.8%である。 ・ジュニアマイスター取得者も増え、特別表彰者も5名いた。	・学習指導要領の趣旨や改善点を踏まえて、質の高い教育活動を展開する。 ・学習活動において基礎・基本をしっかりと押さえた、よりわかりやすい授業を展開するよう指導をお願い致します。 ・学級担任と教科担任の連携を強化し、欠点科目を減らすよう努める。	
		(6) 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が70%以上である。	A	A	A	・授業に対して真剣に取り組んでいる生徒が87.1%である。また、学校の学習指導に満足、ほぼ満足の合計が80.3%である。さらに、保護者が学校の学習指導に満足、ほぼ満足の合計が85.1%である。 ・ICT機器を積極的に活用し、わかる授業を心掛け、生徒の実態に応じて授業改善や補習などの取り組みを行った。		
	4 生徒は確かな学力を身につけていますか。	(7) 欠点保持者数は各学期で全校の10%以下である。	A	A	A	・2学期の欠点保持者数は生徒全体の10.5%である。 ・長期欠席者に複数の欠点科目を抱えている傾向が見られる。	・それぞれの分掌組織において、職員間の情報共有が促進するように努める。 ・分掌や学年、学科間の連携をより一層強化し、学校の組織力の向上に努める。 ・遅刻数が例年より増加したため、未然防止として保護通知等で家庭での協力を得る。 ・遅刻の原因が生活習慣の乱れによるものがあるため授業や集会等で生徒に意識づけさせる。 ・早期に受診の必要がある生徒へは、保護者に連絡をするともに、医療機関の受診方法等について個別に相談を受ける体制を整える。 ・生徒が職員に話しやすい雰囲気をつくり、多くの情報を取り入れていきたい。 ・いじめ防止に於ける話し合いなど生徒の活動を数多く実施していきたい。 ・インターネットリテラシーを身につけるために、いじめ防止活動や情報モラル教室の内容を活かしながら、生徒間の活動を実施し、SNSの利用について考えさせていきたい。 ・入学してくる生徒が中学校で部活動をあまりできていないことが予想されるため、新入生歓迎会等を上手に活用することで、高校での部活動に興味を持ってもらい、入部率を更に高めたい。	
		(8) 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	A	A	A	・教育相談係やスクールカウンセラー、臨床心理士と連携して、支援が必要な生徒に対応した。 ・学年会を月に4回実施し、情報交換した。 ・必要に応じて教科担当者会議を開催し、教科担当者間の情報共有を行った。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による欠席・遅刻をなくし、1日平均遅刻者数は前年度の98%以下である。	B	B	B	・学校と家庭で連絡が密にとりながら欠席や遅刻が続かないように未然防止をした。 ・職員間でも情報の共有を行い、家庭と連携しながら対応した。	・心身の健康維持や良好な人間関係の構築、活発な部活動などの様々な取組が、充実した豊かな学校生活を高いレベルで実現しているものと思います。	
		(10) 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査の必要がある生徒の受診率は80%以上である。	B	B	B	・新型コロナウイルスの影響もあり、医療機関への受診率が低下していることが考えられる。また、保護者の協力についても得られないこともあるようである。		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11) 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に各学期1回以上は行っている。	A	A	A	・学期ごとに学校生活アンケートの実施で、いじめの早期発見・対応を職員間でやり、家庭とも連携しながら対応した。	・1学期に集会等でいじめについて全校生徒に説明した。 ・生徒指導だけでなく学期に1回いじめに関する内容を掲載した。 ・毎学期始業式や終業式でSNSの利用について指導した。 ・情報モラル教室やこころの教育授業などの講話を実施し、インターネットリテラシーを身につけさせた。	
		(12) 学校は、「学校いじめ防止基本方針」について、1回以上生徒に説明している。	A	A	A	・1学期に集会等でいじめについて全校生徒に説明した。 ・生徒指導だけでなく学期に1回いじめに関する内容を掲載した。		
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	(13) 学校は、生徒がSNS(ツイッターやラインなど)やインターネットの危険性や正しい利用方法などについて、1回以上は学ぶ機会をつくっている。	A	A	A	・毎学期始業式や終業式でSNSの利用について指導した。 ・情報モラル教室やこころの教育授業などの講話を実施し、インターネットリテラシーを身につけさせた。	・工業分野特有の進路や職業観の理解を促すことは、生徒と保護者の両者に対して重要なことであり、早期に同時並行的に行うことが肝要かと思えます。貴校の充実した進路の実績から、こうした積み重ねが着実に実を結んでいくものと感じられます。 ・進路指導を十分に取り組んでいる。関係行事やガイダンス等を着実に実施されており、その結果が進路実現への取組につながっていると思います。	
		(14) 部活動に積極的に取り組んでいますか。	A	A	A	・活動制限が設けられている中で各活動が大会に向けて部員を集め、日々の練習に取り組んでいる様子が見られた。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(15) 進路関係の行事やガイダンスを年5回以上実施する。	A	A	A	・昨年度同様に新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、生徒一人一人の多様化する進路希望について進路行事やガイダンスをすべて実施できた。	・インターンシップ効果は、いろいろな場面で評価されてきている。無理のない範囲で、できるだけ多くの生徒が参加できることを期待している。 ・進路指導のIT化など時代に即した指導方法には感心します。進路指導に関しては、担任の先生からの計画的なアドバイスを始めある程度は生徒に選択肢を持たせるなど、より社会生活に近い状態を作り出してもらっている事は学校全体がワンチームで動いている現れではないでしょうか。 ・工業分野特有の進路や職業観の理解を促すことは、生徒と保護者の両者に対して重要なことであり、早期に同時並行的に行うことが肝要かと思えます。貴校の充実した進路の実績から、こうした積み重ねが着実に実を結んでいくものと感じられます。 ・進路指導を十分に取り組んでいる。関係行事やガイダンス等を着実に実施されており、その結果が進路実現への取組につながっていると思います。	
		(16) 学校からの進路に関する情報について満足している保護者が80%以上である。	A	A	A	・進路に関する情報について、生徒や保護者が必要な情報を得られるように配慮した。 ・Googleクロムブックを活用して、昨年度より早めに進路に関する情報を配信した。		
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(17) 進路について真剣に考え、その実現のために努力している生徒が70%以上である。	A	A	A	・進学、就職、公務員希望者の大半は、納得できる進路実現を果たすことができた。また、自ら積極的に行動ができる生徒が増加傾向にある。今後も最大限の進路支援やキャリア教育に努める。	・計画通り授業参観の準備を進めるとともに、実施できない場合でも、Webページ等を通じて授業の様子を随時発信し、本校の教育活動を多くの人に知っていただくようにする。 ・次年度は前工祭を実施する予定である。学校の魅力を多くの人に披露する場面として、全校三者面談は、学校生活や進路指導の相談の場として極めて有効であるため、次年度も継続して実施する。 ・来年年度実施できるように準備を進めたい。	
		(18) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために学校公開を年3回実施している。	A	A	A	・学校説明会を2回開催し、中学生、保護者、中学教員合わせて1291人が参加した。 ・中学校教員対象学校説明会や、地区別説明会、出前説明会を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、授業参観は実施できなかった。		
V 開かれた学校づくりに積極的に情報発信をしていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(19) 保護者全員を対象とした学級担任による面談を年1回以上実施している。	A	A	A	・6月に2週間にわたり全校三者面談を行い、全生徒、保護者がHR担任と学校生活や進路について面談した。	・「前工通信」や学校案内を作成し、中学校をはじめ関係者に配布し、広報に努める。 ・Webページに授業や行事の様子や部活動、生徒の活躍などを掲載し、本校の魅力を広く発信する。	
		(20) PTA総会(令和4年度は書面評決)、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が50%以上である。	A	A	A	・PTA総会は、新型コロナウイルス感染拡大により書面表決とした。 ・クラス通信や学校のWebページ、一斉メールなどを活用し、適宜保護者に情報発信している。 ・新型コロナウイルス感染症については、Webページや一斉メールを活用して逐一情報発信している。		
	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	(21) 学校の活動内容や生徒の状況を年12回以上伝え広報活動も行っている。	A	A	A	・「前工通信」(学校新聞)や学校案内を作成し、中学校へ配付した。 ・Webページを随時更新し、学校の情報や生徒の活躍を分かりやすく広報している。 ・今年度新たに「前工だより」を発行し、前橋市内中学校21校及び、地元桂重地区に回覧として1,374枚配布した。	・より多くの情報を共有するために、デジタル化は欠くことはできないことである。拡大拡充を評価したい。 ・学校清掃は学校に行くたびに校内・校外共にいつもきれいになっているので毎回、感心させられます。生徒の掃除もあると思いますが、管理をされている方に感謝です。 ・貴校を訪問するたび、校内の清掃がすすみずみで徹底されており、いつも清々しい気持ちにさせられます。 ・ICT化が今後もっと飛躍的に加速をすると思います。その一方でリアルが必要な場合もあるとおもいます。その案分が今後は重要ではないでしょうか。 ・ICTを活用した授業風景を拝見させていただいた際に、デジタル技術を効果的に活用している様子から、教育現場の新たな進歩に大きな期待を感じました。	
		(22) ICTを活用した授業を週1回以上が行っている。	A	A	A	・各授業でICT機器を最大限活用している。 ・出席停止の者の内、健康状態に問題がない生徒については、ICT端末を用いて授業の同時配信を行い、学びの継続に努めている。 ・各種のアンケート調査等にICT機器を活用している。		
VI 教育のデジタル化につとめていますか。	13 ICTを活用した業務改革を行っていますか。	(23) オンラインによる通知の割合が70%以上である。	A	A	A	・電子メールやWebサイトなどのオンラインシステムを活用して生徒・保護者に通知を行っている。 ・生徒の欠席・遅刻連絡をGoogleFormsを用いてオンラインで行っている。 ・会議資料や職員連絡用にオンラインシステムを構築し、活用している。	・より一層業務のDX化を推進し、利便性の向上や業務改善、負担軽減を図る。	